



## 完全保存版 「自然素材住宅塾」



今の住まいと将来の住まいに役立つ情報満載

こんにちは。駿河屋の九代目当主一樹です。

子育て奮闘中のお父さん、お母さん、家の中は安心だと思っていませんか。実は幼児期における家庭内事故はとても多いのです。事前にどのような事故が多いか知っておいて、子供の行動を予測して防ぎましょう。今日はそんなお話し。

それでは、今月も子育てママにお役にたてる、おうちの中で大切なこと、発信します！

### 【子供の成長によって発生する事故を予測して防ぐ】

2010年12月から2012年12月までの2年間で家庭内の事故は9889件起こっています。「平成25年版消費者白書」

年齢別に観ると12歳以下の事故7997件のうち、住宅内が5390件と、約7割を占めています。この住宅内部での事故ですが年齢別でみますと、0歳以上、2歳未満 2645件（49.0%）2歳以上、6歳未満 2147件（39.8%）6歳以上、12歳未満 598件（11.0%）つまり、0歳から2歳未満の事故が半分を占めています。

0歳から12歳までは、子供の発育が大きいので、事故の傾向は全く違うものになります。目の前のものを口に入れる「誤飲」はタバコや電池などが多く

0歳以上、2歳未満 509件（19.2%）2歳以上、6歳未満 213件（9.9%）

6歳以上、12歳未満 37件（6.2%）発育と同時に事故は減少していきます。

それに対して「ぶつかる」などの怪我の率は上昇していきます。

このように、発育によって、こういった事故が多いのかしることで事故を未然に防ぐことが出来ると思います。

### 寝返りが出来る時期

寝返りが出来る時期の事故は転落が73%を占めます。

ベビーベッドの柵の閉め忘れや、一時的にソファーに寝かせたことによって発生します。またその他の事故として、だっこして階段から転落やファンヒーター前に寝かせてやけどをさせたり、おんぶしてキッチンで家事をしていて、後ろ向きになったときにコンロでやけどをさせたりなど様々です。

## おすわり・はいはいが出来る時期

はいはい・おすわりが出来るようになると様々なものに興味が湧いてきます。そうした興味から転落事故が51%にのぼります。続いて、誤飲14%、やけど12%です。ソファから床のおもちゃを取る際に転落。階段からの転落などが多い例です。その他には・椅子からの転落や・机、テレビ台への衝突・タバコによるやけど・浴槽フタからの転落・ファンヒーターでのやけど・ダンボールからの転落・ベランダからの転落・窓に手を挟むなどに注意が必要です。

## つかまり立ち・伝え歩きの時期

この時期は小さなものや、つまづく物がなくてもつまづいて転倒する事故が増えます。転倒28%、転落24%、誤飲18%、やけど9%です。

・オモチャなどで転倒する・階段から転落する・便器内へ転落して溺死・ドアの指はさみ・ベビーベッドからの転落・洗剤やタバコなどの誤飲・浴槽へ転落し溺死・トースター、炊飯器、加湿器でやけどなどが発生しております。

子供の月齢、年齢でおこりやすい重傷度が高い事故、発生頻度が高い事故を知って、それに対して前もって予防策をとることが重要です。子供を高さのある場所に乘せたら目を離さない。柵や囲いで転落を防ぐこと。入浴中は子供から目を離さない。入浴中以外でも、子供を浴室に近づけない。火や電気器具等のやけどを負う危険があるものに勝手に近づけない。たばこや電池は子供が簡単に手に触れる場所に置かないなど、注意してください。

子供は日々成長します。昨日出来なかったことが今日できるようになる。それは日々楽しみなことですがそれと同時に、様々な事故の可能性も変化していきます。過去の事例を知り事故は必ず発生するという前提で子供の行動から目を離さないようにすることがとても大切です。

家づくりをきっかけに「体と心がよろこぶ暮らし」を考える

創業 1657 年 株式会社駿河屋 〒131-0033 東京都墨田区向島 1-24-16

TEL03-5637-1179 <http://www.surugaya-life.jp>

